

II 特別連載 II

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第283回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は福井大学と筑波大学が実施したオンラインプログラムを紹介する。

福井大学の活動報告



中島 恭平講師



松尾陽一郎准教授 (福井大学学術研究院工学系部門原子力安全工学講座)

ベトナムとの

オンライン交流事業

福井大学は2014年度から19年度までの過去6年間、さくらサイエンスプログラムによりベトナムから学生や若手教員を招聘してきました。残念ながら2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、従来の招へいプログラムを断念せざるを得ませんでした。ベトナムの各機関とのチャンネルを維持し、かつ今後の発展的な関係を築くため、オンラインでの交流事業を計画・開催することとなりました。以下に当日の様子を報告します。

今年1月28日、福井大学とベトナムの大学および研究機関とのオンライン交流会を開催しました。交流会には41名の参加があり、福井大学の松尾准教授が司会を務め、3部構成で進めました。ベトナムからは6機関から参



Nguyen Thi Dungさん

福井大学の泉教授

事業によりこれまで60名を招聘してきた経緯があり、過去の参加者の写真や参加実績なども併せて紹介されました。

第2部では、日本人学生およびベトナム人留学生より普段の学生生活や取り組んでいる研究の概要についての発表として、VINA TOMから福井大学への留学生 Nguyen Thi Dung (現在、博士前期課程1年)さんによる報告がありました。

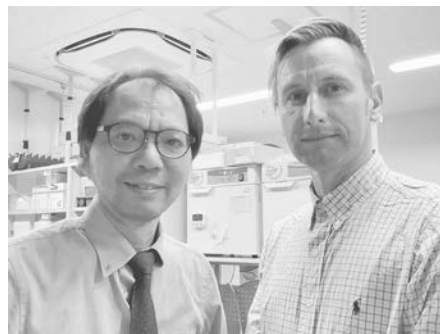
第3部は自由討論として、今後のさくらサイエンスについて、ベトナムの今後のエネルギー政策や教育方針などについて意見交換を行いました。ベトナムの大学から広くさくらサイエンスへの参加を募るためにはどうすればいいかという議論については、分野を分けて複数の申請を行うなどの斬新なアイデアも提案されました。さくらサイエンスへの興味や今後のさらなる発展性が期待されます。



オンラインプログラムのポスター

このオンライン交流事業を通じてベトナム機関との交流を維持でき、さらに今後のさくらサイエンス事業への関心を高めてもらうことができたと考えています。ここに、オンライン交流会事業への支援を感謝申し上げます。

筑波大学の活動報告



キョン・ホー准教授④とトーマス・メイヤーズ助教 (筑波大学医学医療系)

医学サマー

リサーチプログラム

筑波大学医学医療系ではさくらサイエンスプログラムの支援を受け、第11回医学サマーリサーチプログラムを9月21日から30日(9日間)実施した。本プログラムは、医学系専攻を中心に過去10年間に渡り開催されてきた人気の高い国際教育プログラムである。未来の科学の国際教育プログラムを目的とし、世界中から選ばれた学生に次の4つのセクションで構成される独自のオンライン教育プログラムを開発し提供した。

1. 研究ワークショップ…医学医療系の11研究室が参加し、オンデマンド型のビデオ講義として、①教員は自身のキャリアや研究科学者を目指した経緯②各研究分野のトレンドや問題点③自身の研究目的と目標④を紹介した。参加者は講義を視聴した後、教員からの課題に回答し、後日研究室のメンバールとの研究の詳細についてのライブディスカッションに参加した(図1)。オンデマンド講義には



図1:研究ワークショップ

多くの学生が参加し、各研究室の教員や本大学の大学院生と参加学生との積極的な討論が行われた。①特別セミナー②ライブ配信で実施され、若手研究者に有益な知識として、③ゲノム編集技術④英語での研

究計画書の作成③mRNA…新規ワクチンとその応用④の3つのトピックスについて講演及び討論が行われた。汎用できる技術で各国での研究にも導入しやすいゲノム編集技術や、世界的なCOVID-19パンデミック下で使用されているmRNAワクチンなど話題性の高いトピックスを提供することで学生の興味を刺激し、それらに応用した筑波大学での最先端の研究にも高い関心を持つきっかけとなったものと考えている。

3. 学生交流イベント…筑波大学在学生在が作製したキャンパス、つくば市の紹介、学生の一日を紹介するビデオを通じ、筑波大学での学習生活環境をバーチャル体験してもらった。加えて、日本の文化、言語、学生生活、奨学金情報を紹介すると共に、参加学生と在大学生が交流する機会を提供した(図2)。

4. 学生発表会…最終日には参加者は筑波会議2021に招待され、筑波大学の在校生や協定校の学生による口頭研究発表会に参加した。研究ワークショップでは、他研究室からの発表を聞くことで、研究テーマや大学院研究への関心が高まったものと期待される。

本プログラムの参加者は筑波大学の協定校を中心に、全世界から大学HPやSNSを通じて300名を超える応募があった。最終的には13カ国から187名の学生が参加した。プログラム後のアンケート調査では、高い満足度とともに、研究について高い関心が示された。また、学生交流イベントでは、奨学金や研究室、ならびに日本での生活について関心が高く、本学学生と積極的に討論を行った。今回のさくらサイエンスプログラムでは、医学研究への情熱を惹起し、将来研究者として科学イノベーションの創出と社会への還元に貢献できる人材育成の手助けとなり、また日本への優秀な学生の勧誘に寄与したプログラムであったと考える。



図2:学生交流イベント